

授業科目名： 教育学	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 2単位 (講義)	担当教員名： 亀田良克
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	—		
保育士養成課程の区分	教養科目（外国語、体育以外の科目）		
担当教員の実務経験	—		
授業の到達目標及びテーマ 教育の基礎的概念・理論・歴史・思想等について学び、教育の意義・目的を理解する。そして、現在の教育の諸課題に関する基礎的な内容について、理解することを目標とする。			
授業の概要 「教育とは何か」、「教育は何をめざすか」という教育の意義や目的、人間の成長・発達について、基本的な内容を理解する。また、西欧及び日本における教育の理念や思想の歴史的変遷を踏まえるとともに、現在の日本の教育について多様な観点から考察する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：教育の意義と目的 第3回：教育の歴史（1）（「子どもの誕生」） 第4回：教育の歴史（2）（家庭教育・学校教育） 第5回：諸外国の教育理論 第6回：日本の教育理論 第7回：教育の制度 第8回：教育の方法とカリキュラム 第9回：教育に関する思想（1）（コメニウス、ロック、ルソー） 第10回：教育に関する思想（2）（ペスタロッチ、フレーベル） 第11回：教育に関する思想（3）（ヘルバルト、デューイ、モンテッソリー） 第12回：教育の諸課題（1）（求められる教員像と教員評価） 第13回：教育の諸課題（2）（学級課題とその背景） 第14回：教育の諸課題（3）（日本・諸外国の教育改革動向） 第15回：まとめ・テスト			
テキスト 講義資料は適時紹介する。			
参考書・参考資料等 『ヒューマニティーズ教育学』広田照幸、岩波書店 『教育学がわかる辞典』田中智志、日本実業出版社 『教育学21の問い』沼田裕之・増渕幸男、福村出版			
学生に対する評価 筆記試験 60%・提出物 30%・授業態度 10%を総合的に評価する。			

授業科目名： 日本国憲法	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 2単位 (講義)	担当教員名： 小澤由理
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	—		
保育士養成課程の区分	教養科目（外国語、体育以外の科目）		
担当教員の実務経験	—		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>保育者にとって人権を尊重することは保育の基礎です。本講義では権利としての人権が日本国憲法によってどのように保障されているのかを正しく理解することで、保育の現場における人権の尊重について考えることを目指します。講義では①憲法とはどのような法であるかを理解し、日本国憲法の定める基本的人権について、その意義・内容を理解します。②日常生活の出来事や社会問題について人権保障の観点から考察します。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>日本国憲法の成立とその理念について理解し、基本的人権の内容（自由権・社会権・教育権）について理解します。また国民主権と政治の仕組み、裁判所と司法権、平和主義について理解し、様々な社会問題や保育問題を考察するとともに、今日の憲法改正の動向についても理解します。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション：保育者はなぜ日本国憲法を学ぶのか。</p> <p>第2回：日本国憲法の歴史とその基本原理</p> <p>第3回：日本国憲法における基本的人権</p> <p>第4回：三権分立と国民主権、内閣の役割</p> <p>第5回：幸福追求権</p> <p>第6回：自由権：思想・良心の自由、信教の自由</p> <p>第7回：自由権：表現の自由・学問の自由</p> <p>第8回：自由権：職業の自由・財産権</p> <p>第9回：社会権と生存権</p> <p>第10回：教育を受ける権利と義務</p> <p>第11回：社会権と勤労権</p> <p>第11回：裁判所の役割、司法権と</p> <p>第12回：安全保障と自衛隊の存在</p> <p>第13回：憲法改正の動向</p> <p>第14回：講義の振り返り・まとめ</p> <p>第15回：定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>橋本勇人『保育と日本国憲法』みらい社2018年 芦部信喜『憲法（第6版）』岩波書店2015年</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>その都度、プリント・資料等を配布する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>試験60%、リアクション・ペーパー30%、授業への取り組み10%</p>			

授業科目名： 英語	学則に定める必修/選択の別 必修科目	単位数： 2単位 (演習)	担当教員名： 加藤磨理子 担当形態：単独
教員養成課程の区分	—		
保育士養成課程の区分	教養科目 (外国語)		
担当教員の実務経験	—		
授業の到達目標及びテーマ 国際化の進行する保育現場において、英語を母語とする幼児、保護者と、日本語を母語とする幼児への双方に対して、基本的な英語でのコミュニケーションが取れるようになることを目指す。保育に最低限必要な英単語を理解し、正確に発音、表記することができるようになる。			
授業の概要 テキスト『保育の英会話』をベースに、歌、映像などを取り入れて、子どもが英語に親しみ新しい文化を知るきっかけを与える保育者を目指す。前半ではテキスト演習の座学を中心に。後半では子ども向けの英語の歌を、歌詞の内容と子どもが興味を惹くポイントを理解した上で、保育現場で実際に使うことができるように練習をする。適宜、映像資料も視聴する。			
授業計画 第1回： イントロダクション 授業の進め方、自己紹介 第2回： Unit1 保育の英会話への第一歩 "The Alphabet Song" 第3回： Unit1 リスニングの基本、保育の英単語 "Finger Family" 第4回： Unit2 挨拶の決まり "Bingo" 第5回： Unit2 家庭調査票を読み取る "Mary Had a Little Lamb" 第6回： Unit3 時刻の表し方 "Good Morning" 第7回： Unit3 持ち物のお知らせと数 "Lazy Mary" 第8回： Unit4 地図と場所 "Sunday, Monday, Tuesday" 第9回： Unit4 道案内をしてみよう "Head, Shoulders, Knees and Clap!" 第10回： Unit5 子供の遊び "Happy Birthday to you" 第11回： Unit5 動作と遊びの英単語 "The Hokey-Pokey" 第12回： Unit6 登園、今日の天気は? /グループワーク 第13回： Unit6 降園、どんな一日だった? /グループワーク 第14回： Unit6 自分のことを表現しよう ～したことある? /グループワーク 第15回： グループ発表、試験とまとめ 第16回： イントロダクション 授業概要。前期授業とのつながり。 第17回： Unit7 保育者の一日 保育者の一日を振り返ろう "Twinkle, Twinkle, Little Star" 第18回： Unit7 保育者の一日 0歳、一歳児の保育 "London Bridge" 第19回： Unit8 昼食の始まり、声かけをしよう "1,2,3,4,5 Clap Clap" 第20回： Unit8 献立を覚えよう "The Wheels on the Bus" 第21回： Unit9 トイレと排泄 "Old MacDonald Had a Farm" 第22回： Unit9 連絡帳 "Row, Row, Row Your Boat" 第23回： Unit10 子ども同士の喧嘩 "Where Is Thumbkin?" 第24回： Unit10 ～してはいけません、～しましょう "Seven Steps" 第25回： Unit11 怪我と病気①保護者へ報告 "Pat-a-Cake, Pat-a-Cake" 第26回： Unit11 怪我と病気②けがや病気の英単語 "Are You Sleeping?" 第27回： Unit12 電話でのやりとり /グループワーク 第28回： Unit14 赤ちゃんへの声かけ /グループワーク 第29回： Unit15 卒園 /グループワーク 第30回： グループ発表、試験とまとめ			
テキスト 『保育の英会話』(赤松直子、久富陽子著 萌文書林)			
参考書・参考資料等 『くもんはじめてのえいごうたえほん』(公文教育研究会英語教材部)			
学生に対する評価 実技60%、筆記試験(単語テスト)20%、グループワークへの積極性(最終回のグループ発表に向けて、複数で協力し合って一つの作品を作り出す姿勢に着目する。実際の保育の現場を想定して、積極的なコミュニケーションを取り合うことを目標にする)20%			

授業科目名： 音楽Ⅰ	学則に定める必修/選択の別 必修科目	単位数： 2単位 (演習)	担当教員名： 野戸智美/他17名 担当形態：単独、クラス分け
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目（領域に関する専門的事項）		
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目（保育内容の理解と方法）		
担当教員の実務経験	—		
授業の到達目標及びテーマ			
<ol style="list-style-type: none"> 1 保育の場で必要とされる、総合的な音楽の基礎力を学び身につける。 2 主にピアノを媒介として、鍵盤楽器奏法の基本と童謡歌曲等の伴奏法並びに弾き歌いの力を養成する。 			
授業の概要			
<ol style="list-style-type: none"> 1 本校独自の音楽グレード制をベースに、最低目標値をバイエル終了程度とする。 2 年間10回程度のグレード検定試験を行ない、個々のペースにあわせて試験を受けられる。 			
授業計画			
<p>第1回：ガイダンス ピアノ学習の目的と心構え グレード設定。</p> <p>第2回：バイエルNo.1～No.9。正しい姿勢 椅子の高さ 指の位置。</p> <p>第3回：バイエルNo.10～No.20。指使い 正確な音の長さの理解について。</p> <p>第4回：バイエルNo.11～No.20。指使い 正確な音の長さの理解スラーについての確認。</p> <p>第5回：バイエルNo.21～No.30。タイについて 鍵盤の位置。</p> <p>第6回：バイエルNo.21～No.30。タイについて 鍵盤の位置の確認。</p> <p>第7回：バイエルNo.31～No.50。オクターブ記号 付点音符について 全音符から8分音符までの正確な音価。</p> <p>第8回：バイエルNo.31～No.50。オクターブ記号 付点音符について 全音符から8分音符までの正確な音価の確認。</p> <p>第9回：バイエルNo.51～No.79。スタカート アウフタクト ヘ音記号。童謡任意弾き歌い。</p> <p>第10回：バイエルNo.51～No.79。分散形伴奏 ト長調。童謡任意弾き歌いの確認。</p> <p>第11回：バイエルNo.80.83.85。前打音 手の交差奏法 ニ長調・イ長調・ホ長調・ヘ長調。童謡任意弾き歌い。</p> <p>第12回：バイエルNo.88.89.90。16分音符の早い動き 16分休符の意識。童謡任意弾き歌い。</p> <p>第13回：バイエルNo.91.93.95。イ短調 6度の奏法。童謡任意弾き歌い。</p> <p>第14回：バイエルNo.96.97.98。前打音装飾音符 3度の動き。童謡任意弾き歌い。</p> <p>第15回：バイエルNo.80～No.98の中より任意の2曲 童謡の中より任意の2曲（7グレード）。</p> <p>第16回：バイエルNo.99.100.101.102。複付点音符 ポジションの跳躍。童謡任意弾き歌い マーチ。</p> <p>第17回：バイエルNo.99.100.101.102。童謡任意弾き歌い マーチ。</p> <p>第18回：バイエルNo.103.104.105。半音階奏法。童謡・マーチの奏法。</p> <p>第19回：バイエルNo.103.104.105。童謡任意弾き歌い マーチ。</p> <p>第20回：バイエルNo.103.104.105。童謡任意弾き歌いマーチの確認。</p> <p>第21回：バイエルNo.100.102.104.105。の中より任意の2曲 童謡マーチの中より任意の2曲。（6グレード）</p> <p>第22回：ブルグミュラー 25の練習曲 No.1 童謡 マーチの中から「あるきましょう」「はりましょう」</p> <p>第23回：ブルグミュラー 25の練習曲 No.2 童謡 マーチの中から「おとのマーチ」</p> <p>第24回：ブルグミュラー 25の練習曲 No.3 童謡 マーチの中から「おともだち」「オリンピア・マーチ」</p> <p>第25回：ブルグミュラー 25の練習曲 No.4 童謡 マーチの中から「お料理行進曲」</p> <p>第26回：ブルグミュラー 25の練習曲 No.5 童謡 マーチの中から「かけっこマーチ」「かけあしマーチ」</p> <p>第27回：ブルグミュラー 25の練習曲 No.6 童謡 マーチの中から「カレンダーマーチ」</p> <p>第28回：ブルグミュラー 25の練習曲 No.7 童謡 マーチの中から「きれいな小川」「子供の世界」</p> <p>第29回：ブルグミュラー 25の練習曲 No.8 童謡 マーチの中から「小犬のマーチ」「なかよしマーチ」</p> <p>第30回：ブルグミュラー 25の練習曲 No.9 童謡 マーチの中から「バースデイ・マーチ」「パレードマーチ」</p> <p>※ 個人指導を含む為、同様の範囲を示しているが内容は個々の進度によって異なる。</p>			
テキスト			
<p>ドレミ出版社 「こどもの歌名曲アルバム」、聖ヶ丘教育福祉専門学校発行「童謡曲集」・「マーチ曲集」</p> <p>全音出版社 「全訳バイエルピアノ教則本」、全音出版社 「ブルグミュラー 25の練習曲」</p>			
参考書・参考資料等			
<p>幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)</p>			
学生に対する評価			
実技試験 100%			
60～69点を「可」・70～79点を「良」・80点以上を「優」として単位を認定する。			

授業科目名： 音楽Ⅱ	学則に定める必修/選択の別 必修科目	単位数： 2単位 (演習)	担当教員名： 野戸智美/他17名 担当形態：単独、クラス分け
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目（領域に関する専門的事項）		
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目（保育内容の理解と方法）		
担当教員の実務経験	—		
授業の到達目標及びテーマ 1 保育の場で必要とされる、総合的な音楽の基礎力を学び身につける。 2 主にピアノを媒介として、鍵盤楽器奏法の基本と童謡歌曲等の伴奏法並びに弾き歌いの力を養成する。			
授業の概要 1 本校独自の音楽グレード制をベースに、最低目標値をバイエル終了程度とする。 2 年間10回程度のグレード検定試験を設定し、個々のペースにあわせて受験する。			
授業計画 第1回：ガイダンス ピアノ学習の目的と心構え ピアノ担当教員紹介 グレード設定の確認。 第2回：ブルグミュラーNo.1.2 童謡弾き歌い レガート奏法 スタッカート奏法の説明。 第3回：ブルグミュラーNo.1.2 童謡弾き歌い レガート奏法 スタッカート奏法の確認。 第4回：ブルグミュラーNo.3.4 童謡弾き歌い メロディーの歌い方 3度奏法の説明。 第5回：ブルグミュラーNo.3.4 童謡弾き歌い メロディーの歌い方 3度奏法の確認。 第6回：ブルグミュラーNo.5.6 童謡弾き歌い 連続する16分音符や左右の手での10度並進行の奏法と説明。 第7回：ブルグミュラーNo.5.6 童謡弾き歌い 連続する16分音符や左右の手で10度の並進行をバランスよく弾く。 第8回：ブルグミュラーNo.7.8 童謡弾き歌い 右第1指で弾く保持音奏法についての説明。 第9回：ブルグミュラーNo.7.8 童謡弾き歌い 装飾音符についてと第8回の振り返り。 第10回：ブルグミュラーNo.9.10 童謡弾き歌い 長い曲になれる。 第11回：ブルグミュラーNo.9.10 童謡弾き歌い 第10回の振り返りと確認。 第12回：ブルグミュラーNo.1～No.10の中から任意で2曲選択・音の確認 童謡弾き歌い。 第13回：ブルグミュラーNo.1～No.10の中から任意で2曲選択・奏法の確認 童謡弾き歌い。 第14回：ブルグミュラーNo.1～No.10の中から任意で2曲選択・強弱のバランス確認 童謡弾き歌い。 第15回：ブルグミュラーNo.1～No.10の中から任意で2曲選択・暗譜 童謡弾き歌い。（5グレード） 第16回：ブルグミュラーNo.11.12 童謡弾き歌い 上行・下行の動きや両手同時のスタッカート、3連符。 第17回：ブルグミュラーNo.11.12 童謡弾き歌い、確認。 第18回：ブルグミュラーNo.13.14 童謡弾き歌い トリル 装飾音符について説明。 第19回：ブルグミュラーNo.13.14 童謡弾き歌い、確認。 第20回：ブルグミュラーNo.15.16 童謡弾き歌い 和音のバランスや左右のバランス。 第21回：ブルグミュラーNo.15.16 童謡弾き歌い、確認。 第22回：ブルグミュラーNo.17.18 童謡弾き歌い 連打や16分音符の意識。 第23回：ブルグミュラーNo.17.18 童謡弾き歌い、確認。 第24回：ブルグミュラーNo.19.20 童謡弾き歌い ペダルでの和音のレガート奏法 音価。 第25回：ブルグミュラーNo.19.20 童謡弾き歌い、確認。 第26回：ブルグミュラーNo.11～No.25の中から任意で2曲選択・音の確認 童謡弾き歌い 第27回：ブルグミュラーNo.11～No.25の中から任意で2曲選択・奏法の確認 童謡弾き歌い 第28回：ブルグミュラーNo.11～No.25の中から任意で2曲選択・強弱のバランス確認 童謡弾き歌い 第29回：ブルグミュラーNo.11～No.25の中から任意で2曲選択・全体の纏まりと速度 童謡弾き歌い 第30回：ブルグミュラーNo.11～No.25の中から任意で2曲選択・暗譜 童謡弾き歌い ※ 個人指導を含む為、同様の範囲を示しているが内容は個々の進度によって異なる。			
テキスト ドレミ出版社 「こどもの歌名曲アルバム」、聖ヶ丘教育福祉専門学校発行「童謡曲集」・「マーチ曲集」 全音出版社 「全訳バイエルピアノ教則本」、全音出版社 「ブルグミュラー 25の練習曲」			
参考書・参考資料等 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)			
学生に対する評価 実技試験 100% 60～69点を「可」・70～79点を「良」・80点以上を「優」として単位を認定する。			

授業科目名： 音楽Ⅲ	学則に定める必修/選択の別 選択科目	単位数： 2単位 (演習)	担当教員名： 野戸智美
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目（領域に関する専門的事項）		
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目（保育内容の理解と方法）		
担当教員の実務経験	—		
授業の到達目標及びテーマ 保育者にとって音楽は基礎科目の必修である。音楽表現を高めると共に、音楽理論を含めた様々な音楽を体験し、保育楽器を使って学生みずから体感できるように指導する。			
授業の概要 ソルフェージュ（楽譜の基礎・楽典）・器楽演奏・歌唱・手遊び			
授業計画 第1回：ガイダンス 音楽理論の意味と楽典の内容及び授業方針の概要の説明 第2回：楽典（譜表と音名）校歌、附属幼稚園園歌、あいさつのうたの歌唱 手遊び① 第3回：楽典（音符と休符）春の歌の歌唱と演奏 手遊び① 第4回：楽典（音符と休符）春の歌の歌唱と演奏 手遊び② 第5回：楽典（リズムと拍子）夏の歌の歌唱と演奏 手遊び② 第6回：楽典（奏法と曲想）夏の歌の歌唱と演奏 手遊び③ 第7回：楽典（奏法と曲想）秋の歌の歌唱と演奏 手遊び③ 第8回：楽典（音階）秋の歌の歌唱と演奏 手遊び④ 第9回：楽典（和音）冬の歌の歌唱と演奏 手遊び④ 第10回：楽典（伴奏法・コードネーム）冬の歌の歌唱と演奏 第11回：楽典（伴奏法・コードネーム）ハンドベル合奏① 第12回：楽典（移調）ハンドベル合奏② 第13回：ハンドベル合奏③（発表） 第14回：前期まとめ（筆記試験対策） 第15回：前期試験及び前期の振り返り授業			
テキスト 「こどもの歌 名曲アルバム」 ドレミ楽譜出版社 「新・たのしい子どものうたあそび-現場で活かせる保育実践- 第2版」 木村鈴代編 同文書院			
参考書・参考資料等 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)			
学生に対する評価 筆記試験 50% 合奏・合唱・手遊び 30% 受講状況 20% 60～69点を「可」・70～79点を「良」・80点以上を「優」として単位認定する。			

授業科目名： 図画工作 I	学則に定める必修/選択の別 必修科目	単位数： 1単位 (演習)	担当教員名： 羽田顕佑
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目（領域に関する専門的事項）		
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目（保育内容の理解と方法）		
担当教員の実務経験	—		
授業の到達目標及びテーマ 保育における造形活動の主たる意義は、活動過程で生じる主体の変容（子どもの発達）を見取り、状況に適した支援を行う点にある。本授業では、①素材との触れ合いを通して想像力を触発するさまや造形活動の楽しさ・喜びを体験的に学び、また②素材・用具の扱いに関わる幼児の発達段階を理解することで、造形活動における構想上の留意点や支援の在り方について考察する能力を習得することを目指す。			
授業の概要 一般的に用いられる素材や用具の特性を理解するための作品制作活動および実践的な造形遊びを演習として行う。基本的な扱い方を理解しながら自分なりの表し・工夫を行い、また他者との協働や相互の表現を認め合うことで、個々の世界の広がりを獲得してほしい。いずれの活動においても、素材との触れ合いによって得られる感情や身体感覚への気付きが学びの第一歩である。毎回のリフレクション記述および最終試験を通じて体験を振り返り、自身なりの考察を得る学習プロセスを築いてゆく。			
授業計画 第1回：【講義】ガイダンス・授業の趣旨、求める姿勢・評価について/小演習・新聞紙で遊ぶ 第2回：【演習】生活素材の活用・新聞紙の造花づくり 第3回：【演習】画用紙と用具の扱いについて・画用紙/ペット作り①画用紙の質感変化を感じる 第4回：【演習】画用紙と用具の扱いについて・画用紙/ペット作り②用具と描画材の工夫 第5回：【演習】描画材と支持体の特性理解①クレヨン、クレパス、マーカーペン、絵の具 第6回：【演習】描画材と支持体の特性理解②モダンテクニック 第7回：【演習】生活素材の活用・緩衝材で遊ぶ 第8回：【演習】生活素材の活用・ダンボール版画①切る、並べる、貼る 第9回：【演習】生活素材の活用・ダンボール版画②塗る、刷る 第10回：【演習】造形の直感的作用を感じる・ドローイング、フィンガーペイント 第11回：【演習】自然素材との対話・石磨き①下磨き前半（不織布シート） 第12回：【演習】自然素材との対話・石磨き②下磨き後半（不織布シート）、仕上げ（研磨剤） 第13回：【演習】素材の呼吸性を感じる・粘土遊び 第14回：【講義】まとめ①造形活動における主体と素材とのかわり 第15回：【講義】まとめ②子どもの心身発達にかかわる造形活動のあり方について/試験			
テキスト 特になし。各回の内容に応じたプリント資料を使用する。			
参考書・参考資料等 『造形のじかん』作善主編著、愛智出版、2013 『保育をひらく造形表現』槇英子、萌文出版、2008 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省) 保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省)			
学生に対する評価 ①授業への取り組み(20%) ②リフレクションカード記述(15%) ③演習成果物(15%) ④最終試験(50%) 60～69点を「可」・70～79点を「良」・80点以上を「優」とし単位認定する。			

授業科目名： 図画工作Ⅱ	学則に定める必修/選択の別 必修科目	単位数： 1単位 (演習)	担当教員名： 羽田顕佑
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目（領域に関する専門的事項）		
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目（保育内容の理解と方法）		
担当教員の実務経験	—		
授業の到達目標及びテーマ <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の心体発達と造形活動との関連、及び、造形の発達段階について学習する。 ・造形活動で使用する教材や素材・用具についての知識を、体験を通して習得する。 ・年齢や発達に合わせた教育課題が考えられるようになることを目指す。 ・表現領域のひとつとしての、造形教育がもつ目的や意味について理解する。 			
造形活動の主体となる子どもの心情や体性感覚を追体験的に学ぶことで、「描く」「作る」活動を通して何を育むのかという教育的目的を明確に考える実践的姿勢を培ってゆく。 表現活動を通して育まれる心身の発達が子どもの人格・概念形成に関わる大きな要素であることを理解し、また年齢や発達を考慮した課題設定などについて、実技体験により具体的な方法を学習する。			
授業計画 第1回：【講義】ガイダンス…授業の趣旨、概要/人間の生活様相に内包される造形について 第2回：【講義】人間の心身発達の段階（手と言語の能力を中心に）映像教材の鑑賞 第3回：【講義・演習】描画と思考の発達（青年期に至るまでのプロセス）造形による教育の目的 第4回：【演習】描画段階の追体験「スクリブル」～「円」 第5回：【演習】描画段階の追体験「イメージをもって描く」 第6回：【演習】描画段階の追体験「イメージから描く」 第7回：【演習】紙素材による制作①切り紙遊び（手の能力と造形思考） 第8回：【演習】紙素材による制作②お弁当制作（生活のイメージと造形思考） 第9回：【演習】小麦粉粘土の生成と遊び（手の能力と造形思考の発達） 第10回：【演習】土粘土による造形遊び（ことばのイメージと造形思考） 第11回：【演習】壁画制作①素材との出会いからイメージを展開する 第12回：【演習】壁画制作②協働によるイメージの広がり～仕上げ（加筆を楽しむ） 第13回：【演習】工作体験①造形の教材化 第14回：【演習】工作体験②「作る」から「遊ぶ」への展開 第15回：【講義】まとめ 子どもの発達と教育課題/試験			
テキスト 特になし。各回の内容に応じたプリント資料を使用する。			
参考書・参考資料等 『造形のじかん』作善圭編著、愛智出版、2013 『保育をひらく造形表現』槇英子、萌文出版、2008 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省) 保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省)			
学生に対する評価 以下の4観点により評価を行う。 ①授業への取り組み(20%) ②リフレクションカード記述(15%) ③演習成果物(15%) ④最終試験(50%) 60～69点を「可」・70～79点を「良」・80点以上を「優」とし単位認定する。			

授業科目名： 体育 I	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 1単位 (演習)	担当教員名： 黒澤博
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目（領域に関する専門的事項）		
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目（保育内容の理解と方法）		
担当教員の実務経験	—		
授業の到達目標及びテーマ 保育の指導者は、子供達の相手をする体力、運動が子供達の成長に及ぼす影響力を見極める力、さらに各行事における企画力等も必要になります。そこでそれらの事柄について授業を通して考えます。			
授業の概要 健康や安全に留意しつつ、運動に親しむ能力と態度を養う。また常に課題を持ち、その解決のために積極的に工夫をし、努力をしていくこと。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション・・・・・・・・・・授業計画、授業概要（内容、諸注意等）の説明 体づくり運動（体ほぐしの運動）・・・・・・・・遊び（手遊び、昔遊び、ジャンケン遊び等）			
第2回：器械運動①（マット、鉄棒、跳び箱）・・・各種目の演技構成の検討と指導（特に安全面）			
第3回：器械運動②（マット、鉄棒、跳び箱）・・・各種目自由練習（各種目の演技構成の決定と技術の指導）			
第4回：器械運動③（マット、鉄棒、跳び箱）・・・各種目自由練習（技術の指導や補助の方法について学習する）			
第5回：器械運動④（マット、鉄棒、跳び箱）・・・各種目自由練習（演技の構成と内容のチェック、発表演技完成）			
第6回：器械運動⑤（発表）・・・・・・・・・・評価の観点（演技の構成、技の正確性・完成度等）			
第7回：ダンス①（グループ作り、選曲、構成）・・・運動会や発表会を企画するための企画力を養う			
第8回：ダンス②（振り付け）・・・・・・・・・・各グループ自由練習（オリジナルダンスの構成・内容等の検討）			
第9回：ダンス③（振り付け）・・・・・・・・・・各グループ自由練習（踊りの構成チェック）			
第10回：ダンス④（振り付け）・・・・・・・・・・各グループ自由練習（踊りの内容チェック）			
第11回：ダンス⑤（振り付け）・・・・・・・・・・各グループ自由練習（発表演技完成）			
第12回：ダンス⑥（発表）・・・・・・・・・・評価の観点（演技の構成・表現力・完成度・創意工夫等）			
第13回：講義①（恒常性①）・・・・・・・・・・体温の恒常性（体温）			
第14回：講義②（恒常性②）・・・・・・・・・・体液の恒常性（体液の水分量、血液の浸透圧）			
第15回：講義③（恒常性③）・・・・・・・・・・体液の恒常性（血液の水素イオン濃度、血液中のカルシウム量、血糖、血液中の酸素濃度）			
テキスト			
幼保連携型認定こども園教育・保育要領			
参考書・参考資料等			
幼保連携型認定こども園教育・保育要領			
学生に対する評価			
1 運動技能又は提出物・・・・・・・・60%			
2 授業態度・・・・・・・・40%			

授業科目名： 保育原理 I	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 2単位 (講義)	担当教員名： 鈴木敦
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	—		
保育士養成課程の区分	保育の本質・目的に関する科目（「保育原理」）		
担当教員の実務経験	—		
授業の到達目標及びテーマ 保育者は倫理観や感性、豊かな人間性などの素養を身につけ、子どもの生活と遊びを尊重し、子どもの主体性に立脚した保育を行うことを中心にして、保護者の不安や悩みにも支援できる力を培うことを到達目標とし、「保育の基本は人間理解である」ことをテーマとする。			
授業の概要 保育とは何か、保育という仕事はどのようなものか具体的に学びながら、保育者としてあるべき姿を追求して自己課題を見出し、それに向けて努力していけるような内容とする。			
授業計画 第1回：授業オリエンテーション、「保育」とは何か？ 第2回：「子ども理解」から出発する保育 第3回：幼児期の発達と子どもの生活 第4回：幼稚園教育要領、認定こども園教育・保育要領から学ぶ 第5回：子どもが育つ環境を考える 第6回：子どもの生活や遊びの中での育ち方、事例から学ぶ 第7回：諸外国の保育思想と歴史 第8回：日本の保育思想と歴史 第9回：幼稚園の歩み、認定こども園の背景 第10回：幼稚園・認定こども園における教育課程の意義および編成の方法 第11回：子育て支援・保護者への対応 第12回：保育者の専門性 第13回：保育者に求められるもの—子ども、保護者との関わりの中で 第14回：保育の現状と課題 第15回：授業のまとめ・試験			
テキスト 渡邊英則・高嶋景子・大豆生田啓友・三谷大紀（編著）『新しい保育講座①保育原理』ミネルヴァ書房			
参考書・参考資料等 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省) 保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省)			
学生に対する評価 定期試験または課題（レポート）（80%）、平常点（授業内リアクションペーパー、小テスト、積極的発言、発表等授業への貢献度）（20%）によって総合的に評価する。			

授業科目名： 保育原理Ⅱ	学則に定める必修／選択の別 選択科目	単位数： 2単位 (講義)	担当教員名： 小澤由理
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	—		
保育士養成課程の区分	保育の本質・目的に関する科目		
担当教員の実務経験	—		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>保育原理Ⅰを踏まえ、保育の歴史、思想および実践的な原理を理解し、保育職の意義の理解を深め、保育者としての倫理観を高める。保育の内容構成や基本方針を理解し、現代における保育の在り方と、保育現場に求められている内容について理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>保育原理Ⅰで学んだ基礎的な事項を基盤として、保育の歴史・思想及び今日的な保育政策の動向について理解する。保育の内容と方法について、幼児の発達の特徴を学ぶとともに、具体的な保育指導計画等を作成することで、保育者に求められる考え方や態度について考える。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション；保育原理Ⅱとは</p> <p>第2回：保育の思想と歴史</p> <p>第3回：諸外国の保育政策の動向</p> <p>第4回：現代日本の保育政策と保育の制度</p> <p>第5回：子育て支援と保護者への対応</p> <p>第6回：子どもの発達と保育：乳児保育</p> <p>第7回：子どもの発達と保育：幼児保育</p> <p>第8回：子どもの発達と保育：障害児保育</p> <p>第9回：保育と環境構成</p> <p>第10回：保育の指導計画と保育の記録</p> <p>第11回：保育の指導計画：ドキュメンテーションの作成</p> <p>第12回：保育の指導計画：エピソード記録の分析</p> <p>第13回：保育の指導計画：指導計画の評価と改善</p> <p>第14回：専門職としての省察的実践家</p> <p>第15回：講義のまとめ・定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>『幼稚園教育要領』（平成29年3月告示 文部科学省）</p> <p>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）</p> <p>『保育所保育指針』（平成29年3月告示 厚生労働省）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>プリント・資料を配布する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>定期試験40%、発表・提出物40パーセント、授業への取り組み20%</p>			

授業科目名： 教育原理	学則に定める必修/選択の別 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小澤由理
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	教育の基礎的理解に関する科目（教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想）		
保育士養成課程の区分	保育の本質・目的に関する科目（「教育原理」）		
担当教員の実務経験	-		
授業の到達目標及びテーマ 「教育とは何か」について探求を深めるために教育の理念や歴史・思想を知ることがをねらいとする。また、講義を通し学んだことを基礎に、教育や保育の現場で自らの教育観を構築できる能力を身につけることを目的とする。			
授業の概要 ①人間の教育と発達について考え、日本の教育法規・制度を概観する。②西洋と日本の歴史と思想をたどりながら、教育について理解を深める。③今日の教育現場の実践について教育方法や評価、学校教育、家庭教育、生涯教育、特別支援教育等の様々な側面を知る。特に幼児教育の観点から、これらの項目の理解を深めていく。			
授業計画 第1回：イントロダクション：教育の理念と目標 第2回：現代の教育法規と教育制度：教育法規、制度の基礎と教職の位置づけ 第3回：幼児教育と子ども家庭福祉：幼児の特性、教育と子ども家庭福祉の連携 第4回：西洋における教育と子ども観の変遷：古代から中世まで歴史と思想 第5回：西洋における教育と子ども観の変遷：ロック・ルソー・ペスタロッチの近代教育思想 第6回：西洋の幼児教育の歴史と思想：フレーベル、近代公教育制度の成立、新教育運動 第7回：日本における教育と子ども観の変遷：古代、中世の教育の歴史と思想 第8回：日本における近代公教育と幼児教育の歴史：明治期の近代公教育と幼稚園の創設 第9回：日本における幼児教育の歴史：城戸幡太郎の保育思想 第10回：教育方法と評価：教育実践の内容・方法・計画と評価 第11回：特別支援教育：インクルーシブ教育・多文化教育 第12回：生涯教育：生涯学習社会と教育 第13回：現代教育の動向と課題：ダイバーシティ・教育改革の動向 第14回：講義の振り返り・まとめ 第15回：定期試験			
テキスト 毎回プリントを配布する。			
参考書・参考資料等 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省) 保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省)			
学生に対する評価 筆記試験：60% リアクション・ペーパー：20% 授業への取り組み：20%			

授業科目名： 社会福祉	学則に定める必修／選択の別 必修	単位数： 2単位 (講義)	担当教員名： 亀田良克
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	—		
保育士養成課程の区分	保育の本質・目的に関する科目（「社会福祉」）		
担当教員の実務経験	—		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現代社会における社会福祉の意義ならびに歴史、子ども家庭支援の視点について学ぶ。 ・ 社会福祉制度とその実施体系を理解する。 ・ 相談援助の基礎的理解及び利用者保護に関わる仕組みについて理解する。 ・ 社会福祉の動向とこれからの課題について考究する。 			
<p>授業の概要</p> <p>社会福祉の意義、理念、歴史、制度、体系等の基礎を学習するとともに、保育者として求められる子ども家庭支援の視点とはどのようなものであるかを理解していく。また、相談援助に関する理論や方法等の学習を通して、福祉サービス利用者を適切かつ円滑に支援するための態度や行動の基礎を身につけていく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：社会福祉の理念と歴史の変遷 第2回：子ども家庭支援と社会福祉 第3回：社会福祉の制度と法体系 第4回：社会福祉行財政と実施機関・社会福祉施設等 第5回：社会福祉の専門職 第6回：社会保障および関連制度の概要 第7回：相談援助の理論、相談援助の意義と機能 第8回：相談援助の対象と過程 第9回：相談援助の方法と技術 第10回：社会福祉における利用者保護の仕組み 第11回：少子高齢化社会における子育て支援 第12回：共生社会の実現と障害者施策 第13回：在宅福祉・地域福祉の推進 第14回：諸外国の社会福祉の動向 第15回：まとめと試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>「社会福祉 新・基本保育シリーズ④」監修 公益社団法人 児童育成協会、松原康雄・朴洋一・金子充編、中央法規出版、2019</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>なし</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>定期試験（80％）、授業に臨む態度（20％）</p>			

授業科目名： 教職概論	学則に定める必修/選択の別 必修科目	単位数： 2単位 (講義)	担当教員名： 鈴木恵利子
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	教育の基礎的理解に関する科目（教職の意義及び教員の役割、教務内容（チーム学校への対応を含む。））		
保育士養成課程の区分	保育の本質・目的に関する科目（「保育者論」）		
担当教員の実務経験	幼稚園教諭（幼稚園・40年）		
授業の到達目標及びテーマ 本授業では「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」をふまえ、幼児教育の重要性を認識し、保育現場の求める保育者像について考えを深めていきます。保育の意義や役割、幼児教育の課題について、問題意識を深め、これから幼児教育に関わる保育者として自分自身を捉えなおしていくことを大きな柱としています。			
授業の概要 保育者のあるべき姿とは何か、その基本理念を把握することに重点を置き、保育の意義及び保育者の使命、保育の仕事と役割等について学び、自己の課題について問題意識を深め、自らの考え方、感じ方を問い直します。子どもの心の発達を学びながら子ども理解を深め、現在の家庭や教育の問題点を捉え、望ましい保育者について、現場での事例を基に考えていきたいと思えます。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 教科のねらい・授業内容と計画 第2回：人間の発達から“子どもの心の育ち”を知る 胎生期・周産期 第3回：自己肯定感を育てる関わり 第4回：乳児期の発達課題 「基本的信頼感」を育てる 第5回：自己肯定感を育てる関わり 第6回：学童期・思春期・青年期の発達課題 第7回：子どもの社会性が育つみちすじ 第8回：事例をもとに、子どもを取り巻く社会や家庭環境を考える 第9回：事例をもとに 関わり方の難しい子の理解と保護者対応を学ぶ 第10回： 保育者のサービスと研修 第11回：社会の変化と幼児教育の課題 第12回：幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領を学ぶ 第13回：教職の意義と保育者に求められる資質能力・望ましい保育者像 第14回：保育者の使命と役割を考える 第15回：授業の振り返りとまとめ・テスト			
テキスト 「子どもの心が見える本」 佐々木正美著 子育て協会 発行 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領			
参考書・参考資料等 毎回の配布資料			
学生に対する評価 授業態度・提出物・試験			

授業科目名： 教育心理学	学則に定める必修/選択の別 必修科目	単位数： 1単位 (演習)	担当教員名： 黒石憲洋
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	教育の基礎的理解に関する科目（幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程）		
保育士養成課程の区分	学校独自の科目		
担当教員の実務経験	-		
授業の到達目標及びテーマ 教育を考える上で必要となる心理学の基礎概念・用語について理解するとともに、子どもの発達や成長、学習やその個人差を見極めて支えていく上で必要となる考え方として、心理学的な理論や評価や介入の仕方について学習することを目標とする。			
授業の概要 主な内容としては、①学習についての歴史的な考え方、②学習を支える動機づけに関する理論と介入の考え方、③行動における個人差としてのパーソナリティに関する考え方、④教育における評価のあり方とその影響について扱う。授業方法としては、講義、アクティビティ、グループ・ディスカッション、発表などを組み合わせておこなう。			
授業計画 第1回：ガイダンスとイントロダクション：講義の概要、教育心理学で学ぶこと 第2回：教育とは：教育と保育、教育と学習、遺伝と環境 第3回：学習理論①：行動主義（古典的条件づけとオペラント条件づけ） 第4回：学習理論②：認知主義 第5回：学習理論③：状況主義 第6回：動機づけ理論①：欲求理論、達成動機理論、原因帰属理論、目標理論 第7回：動機づけ理論②：学習性無力感理論、自己効力理論 第8回：動機づけ理論③：認知的評価理論、自己決定理論 第9回：パーソナリティ理論①：類型論的理解 第10回：パーソナリティ理論②：特性論的理解 第11回：パーソナリティ理論③：愛着型とその発達 第12回：教育における評価①：絶対評価、形成的評価、ルーブリックとポートフォリオ 第13回：教育における評価②：教育における認知的バイアス 第14回：新しい学習の形態：協同学習、アクティブラーニング 第15回：試験および全体のまとめ			
テキスト テキストは特に使用しない。必要に応じて講義中に資料を配付する。			
参考書・参考資料等 市川伸一（1995）. 学習と教育の心理学 岩波書店 レイブ・ウェンガー（1993）. 状況に埋め込まれた学習：正統的周辺参加 産業図書 ステイペック（1990）. やる気のない子どもをどうすればよいか 二瓶社			
学生に対する評価 15回目の講義中に実施する試験において、合格点（100点満点中、60点以上）を満たせば、単位を認定する。			

授業科目名： 子どもの理解と援助	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 1単位 (演習)	担当教員名： 竹内真悟
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	生徒指導、教育相談等に関する科目（幼児理解の理論及び方法）		
保育士養成課程の区分	保育の対象の理解に関する科目（「子どもの理解と援助」）		
担当教員の実務経験	—		
授業の到達目標及びテーマ			
<p>(1) 一般目標：幼児理解についての知識を身に付け、考え方や基礎的態度を理解する。</p> <p>到達目標：1) 幼児理解の意義を理解している。 2) 幼児理解から発達や学びを捉える原理を理解している。 3) 幼児理解を深めるための教師の基礎的な態度を理解している。</p> <p>(2) 一般目標：幼児理解の方法を具体的に理解する。</p> <p>到達目標：1) 観察と記録の意義や目的・目的に応じた観察法等の基礎的な事柄を例示することができる。 2) 個と集団の関係を捉える意義や方法を理解している。 3) 幼児のつまずきを周りの幼児との関係やその他の背景から理解している。 4) 保護者の心情と基礎的な対応の方法を理解している。</p>			
授業の概要			
<p>幼児が経験する「つまずき」の意味を理解するためには、集団と個の関係、背景にある家庭や地域とのつながり、発達や学びの過程への理解が欠かせない。保育現場における幼児理解の意義を理解し、心理と保育の視点から保育実践を考察し、記録し、共有する方法を身に付ける。</p>			
授業計画			
<p>第1回：幼児理解のための視点：養護及び教育の一体的展開（1）-1）</p> <p>第2回：気になる行動と幼児理解の方法：アセスメント（1）-1）、（1）-2）</p> <p>第3回：幼児の愛着形成と他者の役割：安全基地と分離不安（1）-2）、（1）-3）</p> <p>第4回：幼児の認知発達と他者の役割：年齢による遊びの変化（1）-2）、（1）-3）</p> <p>第5回：幼児を取り巻く世界の広がり：友だち関係とルール（1）-2）（1）-3）（2）-2）</p> <p>第6回：幼児の「つまずき」の意味：気になる子どもの事例を中心に（1）-3）、（2）-3）</p> <p>第7回：「つまずき」への対応：保育者の対応事例を中心に（1）-3）、（2）-3）</p> <p>第8回：記録の目的とまとめ方（2）-1）</p> <p>第9回：記録の実際：保育場面の観察と記録（2）-1）、（2）-2）</p> <p>第10回：記録の共有とグループワーク（2）-1）、（2）-2）</p> <p>第11回：保護者面接と幼児理解：生育歴と援助資源（2）-3）、（2）-4）</p> <p>第12回：保護者の「困り感」に寄り添う：カウンセリング技法（2）-4）</p> <p>第13回：インタビュー演習（2）-1）、（2）-4）</p> <p>第14回：子どもを受け止めるための環境：役割分担と連携の意義（2）-2）、（2）-4）</p> <p>第15回：定期試験とまとめ</p>			
テキスト			
特になし			
参考書・参考資料等			
<p>幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)</p> <p>保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省)</p>			
学生に対する評価			
課題への取り組みと内容（60％）、試験（40％）によって評価する。			

授業科目名： 教育行政	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小澤由理 担当形態：単独
教員養成課程の区分	教育の基礎的理解に関する科目（教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。））		
保育士養成課程の区分	学校独自の科目		
担当教員の実務経験	—		
授業の到達目標及びテーマ 教育行政は公権力のある機関が教育に関する法令を実現化する行為のことで、教育や保育の現場に大きな影響を与えています。本講義では、教育行政の理念とそれを支える日本国憲法や各種の教育法令（教育基本法、学校教育法）について理解し、国と地方の制度や学校と地域、安全について基本的な事項を知ることを目指します。特に現代の保育の現場に影響を与えている保育所保育指針と幼稚園教育要領の内容と法令の関係と、今後の課題について考えます。調査、探究活動を通し、受講者自身が将来の展望や今後の課題を考察します。			
授業の概要 現代日本の幼児教育を含めた教育行政の理念と教育関係法規について、歴史的な変遷や基本的な内容の理解を深める。また学校と地域の連携、保育者としての学校安全についても講義する。また幼稚園と保育所をつかさどる法令や行政機構や、教育要領・保育指針の内容を理解し、保育者の制度上の位置づけと専門性について理解を深め、現在進められている幼保一元化の現状と課題を知る。			
授業計画 第1回：イントロダクション：教育行政の理念と日本国憲法 第2回：教育制度の原理と教育基本法 第3回：学校教育法と学校制度 第4回：教育委員会制度と教育ガバナンス 第5回：社会教育制度 第6回：諸外国の学校制度・幼児教育 第7回：学校と地域の連携：家庭教育と幼稚園、地域との関わり 第8回：学校保健安全法と安全教育・危機管理 第9回：現代日本の幼児教育行政と保育行政 第10回：幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領針のねらいと内容 第11回：幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の計画・実践・評価 第12回：現代日本の幼保一元の政策動向と課題 第13回：地域の保育を考える 1) 横浜市の保育の現状と課題 第14回：地域の保育を考える 2) よりよい保育の実現のために 第15回：講義の振り返り・発表			
テキスト プリントを配布			
参考書・参考資料等 伊藤良高『幼児教育行政学』晃洋書房 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省) 保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省)			
学生に対する評価 講義での発表や提出物70% 授業への取り組み30%			

授業科目名： 教育課程総論	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 2単位 (講義)	担当教員名： 大嶋織江 担当形態：単独
教員養成課程の区分	教育の基礎的理解に関する科目（教育課程の意義及び編成の方法）		
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目（「保育の計画と評価」）		
担当教員の実務経験	—		
授業の到達目標及びテーマ 幼稚園教育要領を基準として各幼稚園において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各園の実情にあわせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。 ① 幼稚園教育において教育課程が有する役割・機能・意義を理解する。 ② 教育課程編成の基本原則及び幼稚園の教育実践に即した教育課程編成の方法を学ぶ。 ③ 領域や学年をまたいでカリキュラムを把握し、幼稚園教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。			
授業の概要 <ul style="list-style-type: none"> 教育課程の基本的な理念、幼稚園教育要領の歴史的な変遷や社会背景を理解し、幼稚園教育において教育課程が大きな役割や機能を果たしていることを学ぶ。 教育課程の編成原理、長期の指導計画や短期の指導計画について理解し、基本的及び具体的な計画が幼稚園の教育実践に即して立てられるようにする。 計画と実践とその評価についての関連性や、保育カリキュラムの全体構造の理解を図るとともに、具体的な活動計画の立案の仕方を学び、実践案を作成し模擬保育を体験する。 カリキュラム・マネジメントの意義を知るとともに、こどもたちの姿や地域の実情を踏まえて設定する園の目標を実現するために評価して改善を図るPDCAサイクルの確立や地域資源の活用についても具体的な例を通して学ぶ。 			
授業計画 第1回：オリエンテーション～授業内容の説明と予定について～、～教育課程・全体的な計画とは何か～、 第2回：保育における計画と評価の意義について 第3回：カリキュラムの基礎理論について 第4回：教育課程・保育課程の変遷について 第5回：改訂幼稚園教育要領と「育みたい資質・能力」について 第6回：幼稚園・保育所・認定こども園における関係法令について 第7回：教育課程および全体的な計画等の編成の方法と手順について 第8回：指導計画の作成①～長期の指導計画の編成について～ 第9回：指導計画の作成②～短期の指導計画の編成について～ ごっこ遊びの体験①（お寿司屋さんごっこ）～グループワークと指導案の作成～ 第10回：ごっこ遊びの体験②（パン屋さんごっこ） ～もくねんさんの粘土を使ってのパン作り（形づくり）～ 第11回：ごっこ遊びの体験②（続き）（パン屋さんごっこ） ～もくねんさんの粘土を使ってのパン作り（色塗り）とグループワーク～ 第12回：食育と食育カリキュラムについて 第13回：子育て支援としての延長保育～長時間保育の実際について～ 第14回：保育の記録および省察について、保育の評価と改善 ～PDCAサイクルの考え方について～ 第15回：試験と振り返り			
テキスト 『保育の計画と評価—豊富な例で1からわかる—』宮川萬寿美編著 啓文書林 2018			
参考書・参考資料等 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)及び解説 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)及び解説 保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省)及び解説			
学生に対する評価 筆記試験(40%) レポート・課題(30%) 作品・発表(20%) 授業への貢献度(10%)			

授業科目名： 健康 I	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 1 単位 (演習)	担当教員名： 鈴木敦／坂吉美代 担当形態：単独
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目（保育内容の指導法）		
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目（「保育内容演習」）		
担当教員の実務経験	—		
授業の到達目標及びテーマ ① 幼稚園教育要領・保育所保育指針における「領域健康」の「ねらい」「内容」について理解し、習得し、保育活動の中で実践できるようにする。 ② 幼児の健康の諸問題について自ら学び、自ら考え、問題解決できるように生きる力を育む指導を学ぶ。 ③ 心身共に健康な子どもの姿・発達の実態に関して興味関心を持ち、発達の道筋を理解した上で、自ら調べ考えることができる。 ④ 今日の課題（基本的生活習慣・食育・心身の健康・運動の充実）について理解し、説明できる。			
授業の概要 幼児期における健康の意義と領域「健康」のねらいと内容について知り、子どもの体の発達や運動発達の実態について捉える。具体的には、幼児の教育・保育と諸法律の関係性（学校教育法他）、幼稚園教育要領や保育所保育指針における健康領域の考え方、幼児の健康と基本的生活習慣や食育との関わり、現場における安全・衛生管理について論じる。			
授業計画 第1回：オリエンテーション。「健康 I」導入としての幼児教育の目的と領域について。 第2回：健康の概念と領域「健康」について。健康とは何かについて考え、幼稚園教育要領・保育所保育指針における健康の取り扱いについても概観する。 第3回：子どもの育ちについて学び、子どもの身体的な発育・発達の様子について知る。 第4回：子どもの「健康」をめぐる現状と課題（1）として、最近の子どもたちの現状と運動能力について知る。 第5回：子どもの「健康」をめぐる現状と課題（2）として、最近の子どもたちの現状に関する分析をする。 第6回：子どもの健康と遊び（1）として、ルールのある遊びについて知る。 第7回：子どもの健康と遊び（2）として、道具を使った遊びについて知る。 第8回：子どもの健康と遊び（3）として、固定遊具を使った遊びについて知る。 第9回：子どもの健康と遊び（4）として、さまざまな遊びについて知る。 第10回：子どもの健康と環境構成（1）として、遊具の配置や固定遊具、自然環境を活用した遊びの環境構成について知る。 第11回：子どもの健康と環境構成（2）として、子どもの自発的な遊びを引き出す保育の工夫について考える。 第12回：運動遊びのまとめとして、遊びの導入と内容について指導計画を立て、他者から互いに評価を受ける。 第13回：子どもの生活習慣について学び、基本的な生活習慣とその意義および獲得について知る。 第14回：子どもの健康と安全教育について学び、子どもの安全教育について考える。 第15回：領域健康のめざすものを考え、健康にかかわる内容についての指導計画を立て、模擬保育を実施する。			
テキスト			
参考書・参考資料等 『新訂 事例で学ぶ保育内容 領域 健康』無藤隆、倉持清美編著 萌文書林 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省) 保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省)			
学生に対する評価 定期試験もしくはレポート（60%）、提出物（10%）、ノート提出（10%）、グループワーク発表（10%）、授業態度（10%）で総合的に評価する。			

授業科目名： 人間関係I	学則に定める必修/選択の別 必修科目	単位数： 1単位 (演習)	担当教員名： 渡辺泉 担当形態：単独
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目（保育内容の指導法）		
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目（「保育内容演習」）		
担当教員の実務経験	—		
授業の到達目標及びテーマ <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領における領域「人間関係」のねらいや内容について説明できる。 ・乳児期のかかわりの重要性について、自分の言葉で説明できる。 ・目に見える子どもの行動や表情から心の動きを推測し、可視化できる。 			
授業の概要 幼児期に育てたい豊かな人間関係とは何か、幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領をもとに、子どもの発達段階に沿ったかかわりを考える。また、年齢ごとの社会性の発達を理解し、グループで調べ学習を行い、模擬授業形式で発表する。さらに、乳児期のかかわりの重要性について、親子関係を中心としながら多面的に理解できるよう授業を展開していく。			
授業計画 第1回：オリエンテーション、保育内容「人園関係」とは 第2回：自己の経験を振り返るワークショップ 第3回：現代社会におけるかかわりの喪失 第4回：保育内容「人間関係」の基本的な理解 第5回：乳児の発達とかかわりの育ち ～0・1・2歳児の発達を理解し、模擬授業で発表する～ 第6回：幼児の発達とかかわりの育ち ～3・4・5歳児の発達を理解し、模擬授業で発表する～ 第7回：親子のかかわりを考える ～家庭でのかかわりを考え、模擬授業で発表する～ 第8回：多様な人とかかわりを考える 第9回：かかわりを見つめる視点 ～保育現場の映像を視聴して～ 第10回：けんかの中で育つ力 第11回：グループワークを通して集団遊びを考える 第12回：自分たちで考えた集団遊びを実践し、指導案を作成する 第13回：集団遊びの振り返りを行い、実習への課題を見出す 第14回：幼児教育の現代的課題と保育内容「人間関係」 第15回：まとめと試験			
テキスト 『事例で学ぶ保育内容<領域>人間関係』 無藤隆監修 岩立京子・赤石元子他編著（萌文書林）			
参考書・参考資料等 幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省） 保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省） 適宜、資料プリントを配布する。			
学生に対する評価 定期試験（50%） 演習課題の取り組み・受講態度(30%) レポート・提出物（20%）			

授業科目名： 環境 I	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 1単位 (演習)	担当教員名： 岸本圭子
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目（保育内容の指導法）		
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目（「保育内容演習」）		
担当教員の実務経験	幼稚園教諭（幼稚園・20年）		
授業の到達目標及びテーマ			
<ol style="list-style-type: none"> 1 幼児にとっての環境の大切さを学ぶ 2 幼児が意欲的にかかわる環境づくりを学ぶ 3 学習したことと実際の保育とを結びつけるため、具体的イメージを持てるようにする。 			
授業の概要			
<p>幼児は、環境と能動的に関わることを通して生きる力を獲得していく。そのため、保育環境を整えることは大変重要なため、どのように構成していくのか考える。その環境の中で幼児が具体的にどのような遊びを展開し、どのような力を獲得していくのか、さらに保育者の援助はどうあるべきなのかなどについて、具体的な事例や写真をもとに考えていく。学生自身も環境のひとつとして立居振る舞いに気を付け、環境に鋭く反応できる保育者になることを目指す。</p>			
授業計画			
第1回：環境とは・・・(自己紹介ゲーム、オリエンテーション)			
第2回：環境を考える(教育要領 保育指針に沿って)			
第3回：人的環境とは			
第4回：物理的環境①遊具について、教材研究・・・新聞紙			
第5回： " ②自然について			
第6回：物理的環境③保育環境の重要性			
第7回： " ④遊具について、教材研究・・・折り紙			
第8回： " ⑤教材研究身近なもの、教材研究発表と模擬授業			
第9回：環境を整えるということ、その他の教材研究			
第10回：その他の環境について、環境に配慮した指導案作成について			
第11回：作ってみよう① 施設環境の教材研究			
第12回： " ② 理想の施設環境作成			
第13回：発表(作ったもの)			
第14回：まとめ(今後の課題、環境の重要性)			
第15回：授業の振り返り 試験			
テキスト			
幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)			
幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)			
保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省)			
参考書・参考資料等			
特になし			
学生に対する評価			
製作物・提出物(40%)、試験(60%)により総合的に評価			

授業科目名： 言葉 I	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 1単位 (演習)	担当教員名： 渡邊晶
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目（保育内容の指導法）		
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目（「保育内容演習」）		
担当教員の実務経験	—		
授業の到達目標及びテーマ 5領域の1つである「言葉」という側面から子ども理解や保育方法について学ぶ。子どもの発達過程に即した子ども理解と共に、事例研究やグループワークを通し、考察力・実践力を習得する。			
授業の概要 5領域の一つである「言葉」という側面から子ども理解や実際の保育方法について学びます。生後から小学校就学前までの子どもの発達過程にそくした子ども理解とともに、「子どもが言葉をどのように習得するか」について、事例研究やグループワークを通して学びます。この授業では、実際に幼稚園や保育所で行われている活動やあそび等をたくさん取り入れます。その中で、各年齢にふさわしい教材やカリキュラムをみんなで考えながら楽しく学び、実践力を習得します。			
授業計画 第1回：第1回：オリエンテーション／領域「言葉」について 第2回：子どものことばと育ち 第3回：領域「言葉」とはなにか 第4回：ことばはどのように育つのか—言葉の発達①～生後から2歳児 第5回：ことばはどのように育つのか—言葉の発達②～3歳児から就学前 第6回：子どものことばと保育者 第7回：絵とことばの豊かな世界を楽しむ／紙芝居制作について（教材研究） 第8回：うたやふれあい遊びを楽しむ遊び 第9回：劇や物語を楽しむ児童文化財と内容（指導案作成） 第10回：想像やことばのリズム遊びを楽しむ 第11回：紙芝居発表会（模擬授業） 第12回：ごっこ遊びの世界から劇遊びへ①～劇あそびの原点を探ってみよう 第13回：ごっこ遊びの世界から劇遊びへ②～実際にごっこ遊びを考えてみよう 第14回：特別な配慮が必要な子どもとの関わり 第15回：試験と振り返り／まとめ・総論			
テキスト 渡邊晶著『言語表現～五感で楽しむ児童文化財～』大学図書出版、2015 大嶋康(監修)『かんきょうかがくえほん』学研教育みらい、2018			
参考書・参考資料等 太田光洋(編著) 保育・教育ネオシリーズ20『保育内容・言葉』同文書院、2006年 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省) 保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省)			
学生に対する評価 成績評価は参加態度20%、課題提出20%、試験60%とし、60点以上のものに単位を与える。課題の提出期限は厳守すること。			

授業科目名： 表現 I	学則に定める必修／選択の別 必修	単位数： 1単位 (演習)	担当教員名： ごとうなみ
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目（保育内容の指導法）		
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目（「保育内容演習」）		
担当教員の実務経験	—		
授業の到達目標及びテーマ 様々な方法による学生自身の自己表現を通じて「表現とは何か」「表現の領域」「表現と他者との関わり」に対する理解を目指す。			
授業の概要 オイルパステルや紙粘土など様々な素材を用いて、学生自身のイメージを形にし、それを他人へ伝えることを繰り返し行う。頭の中にあるイメージを手先を使って目の前に表すことで、表現が人間にどのような作用をもたらすのかを、体験的に理解できるような授業を展開する。またそのように表現された他人の作品に対して、どのように言葉がけをすればいいかを相補的に理解するよう授業を展開する。			
授業計画 第1回：講義／オリエンテーションー表現の授業で行うこと 第2回：講義 実技/自己紹介：顔出しパネル風自己紹介作成 第3回：実技／自己紹介②：作成と発表 第4回：実技／クレヨンの扱い①：音楽を描こう 第5回：実技／クレヨンの扱い②：色々な素材に描いてみる 第6回：実技／絵の具の扱い①：筆の代わりになるものなーに？ 第7回：実技／絵の具の扱い②：絵の具を使った色々な表現方法 第8回：実技／出てこいおばけ①：クレヨンでお化けを描こう 第9回：実技／出てこいおばけ②：描いたお化けを紙粘土で作る 第10回：実技／出てこいおばけ③：着彩 第11回：実技／出てこいおばけ④：発表 第12回：実技／新聞紙で造形①：大蛇を作ろう 第13回：実技／新聞紙で造形②：溶けた新聞紙を握る 第14回：講義／表現の役割まとめ 第15回：講義／レポート提出／授業振り返り			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 各授業により適宜参考資料配布			
学生に対する評価 授業中の成果物（30%）、授業態度（40%）、レポート（30%）			

授業科目名： 乳児保育 I	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 2単位 (講義)	担当教員名： 柳田葉子
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	—		
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目（「乳児保育 I」）		
担当教員の実務経験	保育士（保育所・39年）		
授業の到達目標及びテーマ 乳児保育の意義・目的・役割を学び、現代の子育て社会の状況を知り、乳児保育の果たす役割と必要な知識と技術を習得する。			
授業の概要 乳児保育の意義と役割・歴史的変換などを学び、乳児が育つ環境のDVDを視聴し、写真などを使用してグループ討議を行い、一人一人の学生が理解できる講義を行う。			
授業計画 第1回：授業についてのオリエンテーション・乳児保育の目的 第2回：乳児保育の役割・養護と教育 第3回：乳児保育の歴史的変換 多様な場所（保育所・乳児院・家庭） 第4回：胎児期の成長を知る(DVD視聴) 第5回：0歳児の発達と保育者のかかわり方 第6回：0歳児の保育内容 第7回：1・2歳児の発達と保育者のかかわり方 第8回：1・2歳児の保育内容 第9回：乳児の遊びとおもちゃ 第10回：保育室の環境構成 第11回：保育士の専門性と資質向上について 第12回：職員間の連携・協働、保護者や地域との連携 第13回：保護者対応、子育て支援について 第14回：乳児保育の指導計画 第15回：授業の振り返り 学びの確認			
テキスト 「新版」乳児保育 編著 咲間まり子 大学図書出版 新保育所保育指針			
学生に対する評価 授業に向う姿勢・提出物（20%） 、 試験（80%）			

授業科目名： 乳児保育Ⅱ	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 1単位 (演習)	担当教員名： 柳田葉子
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	—		
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目（「乳児保育Ⅱ」）		
担当教員の実務経験	保育士（保育所・39年）		
授業の到達目標及びテーマ 乳児保育Ⅰの授業をふまえ、乳児の発育・発達的基础を学び、演習を通して知識を得るために学生が主体的に個人、集団で問題を明らかにして行く			
授業の概要 3歳未満児の発達を知り、一人ひとりの関わり方の事例を通して具体的学び、それに即した演習を行い乳児保育の基本的な事項を学びながらより深められるようにする			
授業計画 第1回：後期授業のオリエンテーション、安心安全な環境の中で主体性を尊重した保育について 第2回：赤ちゃんの抱き方（スキンシップ・応答について） 第3回：個々の子どもへの援助や受容・応答のかかわり（おむつ交換・衣服の着脱） 第4回：0歳児の発達の理解（おんぶと睡眠について） 第5回：0歳児の遊びと環境（一人一人の実技の確認をする） 第6回：0歳児の沐浴の仕方について 第7回：1歳児の発達の理解（離乳食から幼児食について） 第8回：1歳児の遊びと環境（怪我・病気について） 第9回：2歳児の発達の理解（トイレトレーニングについて） 第10回：2歳児の遊びと環境（基本的な生活習慣と社会的な生活集団） 第11回：集団生活における配慮（移行に対する配慮） 第12回：保育所の一日の生活の流れ（お便り帳の作成） 第13回：保育所の保育計画指導（長期・短期について） 第14回：個別指導計画、 第15回：授業の振り返り、学びの確認			
テキスト 「新版」乳児保育 編著 咲間まり子 新保育所保育指針			
学生に対する評価 授業に向かう姿勢・提出物（20%）実技試験（10%）・試験（70%）			

授業科目名： 特別支援教育	学則に定める必修/選択の別 必修科目	単位数： 2単位 (演習)	担当教員名： 岩羽紗由実・武藤篤訓 担当形態：複数
教員養成課程の区分	教育の基礎的理解に関する科目 (特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解)		
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目(「障害児保育」)		
担当教員の実務経験	岩羽：小学校教諭(小学校・11年)		
授業の到達目標及びテーマ 特別支援学校幼稚部や通常の学級に在籍している発達障害・知的障害など様々な障害等により、特別な支援を必要としている幼児・児童が保育活動において、遊びを通して達成感や自己肯定感を学び、生きる力を身につけていくことができるようにする。 また、幼児・児童が保育や生活場面における困難や経験不足を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら、保育園や幼稚園や認定こども園が組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。			
授業の概要 特別な支援を必要とする幼児・児童に対する必要な人間観や障害観を学び、特性及び心身の発達を理解する。また、保育・教育課程や関係機関との関わりや支援の方法を理解する。また、その他の特別な教育的ニーズのある幼児や児童の保育や、生活上の困難とその対応を理解する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 障害・特別な教育的ニーズとは何か 第2回：特別支援教育(障害児保育)の理念、インクルーシブ教育(保育)、特別支援教育の制度 第3回：障害の概念(ICFの障害)と歴史の変遷 第4回：障害の理解と発達の援助(発達障害(学習障害LD 注意欠陥多動性障害ADHD)) 第5回：障害の理解と発達の援助(発達障害(自閉症スペクトラム障害ASD)) 第6回：障害の理解と発達の援助(知的障害) 第7回：障害の理解と発達の援助(肢体不自由) 第8回：障害の理解と発達の援助(病弱児 医療的ケア児) 第9回：障害の理解と発達の援助(視覚障害) 第10回：障害の理解と発達の援助(聴覚障害：言語障害) 第11回：障害の理解と発達の援助(重症心身障害児) 第12回：障害の受容について 第13回：保護者の支援(特別支援教育コーディネーターと特別支援学校) 第14回：関係機関の連携(幼稚園 保育園 小学校 発達支援センター 医療・保健などの機関) 第15回：まとめ 確認試験 第16回：支援の方法の基本 教育課程(通級、訪問、自立活動) 第17回：支援の方法と個別教育支援計画(発達障害) 第18回：支援の方法と個別教育支援計画(知的障害) 第19回：支援の方法と個別教育支援計画(肢体不自由) 第20回：支援の方法と個別教育支援計画(病弱児 医療的ケア児) 第21回：支援の方法と個別教育支援計画(視覚障害) 第22回：支援の方法と個別教育支援計画(聴覚障害と言語障害) 第23回：支援の方法と個別教育支援計画(重症心身障害児) 第24回：支援の実際(障害児のアセスメント) 第25回：支援の実際(支援体制づくり) 第26回：支援の実際(ムーブメント教育・療法) 第27回：幼稚園 保育園 認定こども園での統合保育の実際(環境 人間関係 健康安全) 第28回：その他の教育的ニーズをもつこどもの理解と支援 外国につながる子ども・貧困等 第29回：障害のある子どもの保育に関わる現状と課題 第30回：まとめ 確認試験			
テキスト 一年生 前田泰弘編著「実践に生かす 障害児保育・特別支援教育」(株)萌文書林 2019 二年生 よくわかる障害児保育 尾崎康子編著 (株)ミネルヴァ書房 2019			
参考書・参考資料等 ・シリーズ 知のゆりかご ライフステージを見通した障害児の保育・教育 (株)みらい 2018			
学生に対する評価 授業態度(40%) レポート(30%) 試験(30%)			

授業科目名： 社会的養護Ⅱ	学則に定める必修／選択の別 必修	単位数： 1単位 (演習)	担当教員名： 密城吉夫
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	—		
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目（「社会的養護Ⅱ」）		
担当教員の実務経験	—		
授業の到達目標及びテーマ 社会福祉の法体系及び施設養護の実際について理解する。			
授業の概要 実践例を取り入れながら利用者への援助の方法・技術について理解する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション、授業内容の説明、措置、児童相談所の現場 第2回：児童自立支援の現状 児童養護の措置 措置停止後の事例 第3回：社会福祉施設における児童養護の事例 第4回：社会福祉施設における児童養護の実際 第5回：社会福祉施設における児童養護の特質 第6回：社会保障と養護内容の関係 第7回：出生率における社会の変化と対応 第8回：児童手当の変遷と父子家庭 第9回：施設外の養護支援 第10回：社会的養護の変遷 第11回：養護における先駆的な役割を果たした人物を振り返る 第12回：社会福祉の法体系の視点から社会的養護の支援を考える 第13回：自閉症児とアスペルガー症候群への支援 第14回：LD(学習障害)とADHD(注意欠如多動性障害)への支援 第15回：振り返り、試験			
テキスト テキストは使用しない。			
参考書・参考資料等 以下に参考文献を記す。各自参考の事。保育者のための社会福祉 小林 育子〔著〕必要に応じて資料を配布。資料用のファイルを各自で持参。			
学生に対する評価 参加態度、試験を総合して判断する。試験については、60点以上を合格点とする。			

授業科目名： 教育の方法と技術	学則に定める必修／選択の別 必修科目	単位数： 1単位 (演習)	担当教員名： 武藤篤訓
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	生徒指導、教育相談等に関する科目（教育の方法及び技術）		
保育士養成課程の区分	学校独自の科目		
担当教員の実務経験	—		
授業の到達目標及びテーマ これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な幼児教育の方法や技術 情報機器及び活用に関する基礎的な知識・技能を身につける。			
授業の概要 この授業では、主体的・対話的で深い学びをするために基礎的な教育の方法について理解し、それを実際の幼稚園教育のさまざまな場面に活用するための資質・能力を育成するための基本と幼稚園で必要な知識を習得するとともに、演習を通して保育の方法と技術を身につける科目である。			
授業計画 第1回：オリエンテーション、幼児教育の基本と方法 第2回：幼児理解とその方法 第3回：環境の構成と保育の展開 第4回：一人一人に応じた指導 第5回：保育の質と評価 第6回：遊びの指導 第7回：生活の指導 第8回：豊かな経験と園行事 第9回：小学校との連携 第10回：様々な指導形態 第11回：主体的・対話的な深い学びと教材研究（情報機器の活用） 第12回：学びあい育ちあうクラスづくり 第13回：児童文化材と保育 第14回：園内外の環境を生かした保育 第15回：保育者にもとめられる専門性 まとめと試験			
テキスト 『幼稚園教育要領』（平成29年度告示） 『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領』（平成29年度告示）			
参考書・参考資料等 その都度 紹介			
学生に対する評価 ・試験（60%） ・提出物（30%）・受講態度（10%）			

授業科目名： 教育相談論	学則に定める必修/選択の別 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 竹内真悟
			担当形態：単独
教員養成課程の区分	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法）		
保育士養成課程の区分	学校独自の科目		
担当教員の実務経験	—		
授業の到達目標及びテーマ (1) 学校における教育相談の意義と理論を理解する。 1) 学校における教育相談の意義と課題を理解している。 2) 教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念を理解している。 (2) 教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄を含む）を理解する。 1) 幼児、児童及び生徒の不応答や問題行動の意味並びに幼児、児童及び生徒の発するシグナルに気づき把握する方法を理解している。 2) 学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性を理解している。 3) 受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法を理解している。 (3) 教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携の必要性を理解する。 1) 職種や校務分掌に応じて、幼児、児童及び生徒並びに保護者に対する教育相談を行う際の目標の立て方や進め方を例示することができる。 2) いじめ、不登校・不登園、虐待、非行等の課題に対する、幼児、児童及び生徒の発達段階や発達課題に即した教育相談の進め方を理解している。 3) 教育相談の計画の作成や必要な校内体制の整備など、組織的な取組みの必要性を理解している。 4) 地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義や必要性を理解している。			
授業の概要 前期は、保育現場における教育相談のあり方について、子ども理解の方法や相談のあり方、事例検討のやり方など、基本的な枠組みを学びます。後期は、子どもの示す様々な症状や問題について学び、子どもを取り巻く状況や保護者、保育者自身の問題を含めて、理解を深めます。			
授業計画 第1回：前期オリエンテーション：教育相談とは 第2回：幼稚園・保育園における相談活動：カウンセラーと保育者の違い 第3回：相談場面の枠組み：相談におけるリスク、枠組みの必要性 第4回：関係機関との連携 第5回：子ども理解の方法：行動観察、面接法、検査、医学的診断 第6回：様々なアセスメント技法1：投影法 第7回：様々なアセスメント技法2：知能検査 第8回：生育歴と家族関係の理解 第9回：カウンセリングの基礎と技術 第10回：コミュニケーションのあり方：自己開示とアサーティブな表現 第11回：関係がこじれるとき：感情の転移・逆転移 第12回：子どものSOSと相談のあり方 第13回：大人のSOSと相談のあり方 第14回：事例検討の基礎：事例検討の目的、インシデント・プロセス法 第15回：試験対策と試験 第16回：後期オリエンテーション：様々な問題と事例 第17回：心の問題辞典を作ろう1：分担の発表と説明 第18回：心の問題辞典を作ろう2：調べ学習と辞典製作 第19回：心の問題辞典を作ろう3：〇×クイズと発表 第20回：子ども理解の視点1：器質的問題、発達的問題、心理的問題の違い 第21回：子ども理解の視点2：自我の発達と防衛機制 第22回：子ども理解の視点3：発達課題と症状 第23回：子ども理解の視点4：ストレスとコーピング 第24回：子どもを取り巻く環境1：虐待について 第25回：子どもを取り巻く環境2：外傷体験について 第26回：子どもを取り巻く環境3：保護者の困り感 第27回：子どもを取り巻く環境4：保育者のメンタルヘルスケア 第28回：問題行動へのアプローチ事例 第29回：家族システムへのアプローチ事例 第30回：試験対策と試験			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 『子どものこころ百科』（東山紘久編、創元社）			
学生に対する評価 課題への取り組みと内容（50%）、試験（50%）により評価する。			

授業科目名： 保育実習 I	学則に定める必修/選択の別 必修科目	単位数： 4単位 (実習)	担当教員名： 実習指導部 担当形態：実習
教員養成課程の区分	—		
保育士養成課程の区分	保育実習（「保育実習 I」）		
担当教員の実務経験	—		
授業の到達目標及びテーマ 1、保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 2、観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 3、既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。 4、保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5、保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。			
授業の概要 ・保育士資格取得にかかわる保育士課程必修の実習として、認可保育所や児童福祉施設等において観察・参加実習を行う。 ・保育所での実習を通じて、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能および保育士の職務について実践的に学ぶ。 ・児童福祉施設等での実習を通じて、施設保育士としての確かな知識を修得する。他職員との連携や生活環境の整備について実践を通して学ぶ。			
授業計画 以下の内容について、保育所、児童福祉施設等でそれぞれおよそ11日間の実習を行う。 教員が訪問指導を行い、スーパービジョンを実施する。 1. 保育所、施設の役割と機能 (1) 保育所、施設の生活と一日の流れ (2) 保育所、施設の役割と機能 2. 利用者児の理解 (1) 利用者児の観察とその記録 (2) 個々の状態に応じた支援や関わり 3. 保育内容、養護内容・生活環境 (1) 計画に基づく活動や支援 (2) 利用者児の心身状態に応じた対応 (3) 利用者児の活動と生活環境 (4) 健康管理と安全対策の理解 4. 計画と記録 (1) 支援計画の理解と活用 (2) 記録に基づく省察・自己評価 5. 専門職としての保育士と役割と倫理 (1) 保育士の業務 (2) 職員間の役割分担や連携 (3) 保育士の役割と職業倫理			
テキスト 「幼稚園・保育所・認定子ども園実習パーフェクトガイド」 小櫃智子・守巧・佐藤恵・小山朝子 わかば社 「保育の基本用語」長島和代編 わかば社 「施設実習ガイド」 田中和則監修 加藤洋子・一瀬早百合・飯塚美穂子 編著 ミネルヴァ書房			
参考書・参考資料等 保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省） 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領			
学生に対する評価 実習先の評価に基づく実習指導部の評価 40% 実習日誌などの評価 60%			

授業科目名： 保育実習指導 I	学則に定める必修/選択の別 必修科目	単位数： 2単位 (演習)	担当教員名： 実習指導部 担当形態：複数
教員養成課程の区分	—		
保育士養成課程の区分	保育実習（「保育実習指導 I」）		
担当教員の実務経験	—		
授業の到達目標及びテーマ ・ 保育所と児童福祉施設等の実習の目的を明確にし、効果的に実習が行われるために必要な事柄を身につけ、保育者としての資質を高める。 ・ 社会人として必要な素養を培い、実習を通して人として大きく成長できる素地を養う。			
授業の概要 ・ 各実習の意義や目的、心得、反省点などを具体的に取り上げ、学習を進める。 ・ 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。			
<p>【保育所実習の内容】</p> <p>第1回：保育所の役割と機能 第2回：保育所保育指針に基づく保育の展開 第3回：子どもの観察とその記録による理解 第4回：子どもの発達過程の理解 第5回：子どもへの援助や関わり 第6回：保育の計画に基づく保育内容 第7回：子どもの発達過程に応じた保育内容 第8回：子どもの生活や遊びと保育環境 第9回：子どもの健康と安全 第10回：全体的な計画と指導計画 第11回：記録に基づく省察、評価について 第12回：専門職としての保育士の業務内容 第13回：職員間の役割分担や連携・協働 第14回：保育士の役割と職業倫理 第15回：実習の振り返りとこれからの自己課題について</p> <p>【児童福祉施設等（保育所以外）における実習内容】</p> <p>第16回：施設における子どもの生活と保育士の支援や関わり 第17回：施設の役割と機能 第18回：子どもの観察とその記録による理解 第19回：個々の状態に応じた支援の理解 第20回：個別支援計画の理解 第21回：保育の計画に基づく保育内容 第22回：施設における子どもの生活と環境 第23回：子どもの心身の状態に応じた生活と対応 第24回：子どもの活動と環境 第25回：施設における利用者の健康管理、安全対策の理解 第26回：記録に基づく省察、評価について 第27回：専門職としての保育士の業務内容 第28回：職員間の役割分担や連携・協働 第29回：保育士の役割と職業倫理 第30回：実習の振り返りとこれからの自己課題について</p>			
<p>テキスト</p> <p>「幼稚園・保育所・認定子ども園実習パーフェクトガイド」 小櫃智子・守巧・佐藤恵・小山朝子 わかば社 「保育の基本用語」長島和代編 わかば社 保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省） 幼稚園教育要領 幼保連携型認定子ども園教育・保育要領 「施設実習ガイド」 田中和則監修 加藤洋子・一瀬早百合・飯塚美穂子 編著 ミネルヴァ書房</p>			
参考書・参考資料等			
<p>学生に対する評価</p> <p>課題提出60% 受講態度40%</p>			

授業科目名： 保育実習Ⅱ	学則に定める必修／選択の別 選択科目	単位数： 2単位 (実習)	担当教員名： 古谷敦・柳田葉子 担当形態：実習
教員養成課程の区分	—		
保育士養成課程の区分	保育実習（「保育実習Ⅱ」）		
担当教員の実務経験	古谷：保育士（保育士・年）・柳田：保育士（保育士・39年）		
授業の到達目標及びテーマ 1. 保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。 2. 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。 3. 既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ。 4. 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 6. 保育士としての自己の課題を明確化する。			
授業の概要 ・保育士資格取得にかかわる保育士課程必修の実習として、認可保育所において実習を行う。 ・保育課程に基づく指導計画を作成し、責任実習を行う。責任実習終了後は省察・評価を行い、子どもの実態を踏まえた指導計画のありかたを学ぶ。 ・保育所での実習を通じて乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能および保育士の職務について実践的に学ぶ。 ・保育所での実習を通じて、保育士の援助の意図や環境構成について学ぶ。 ・他職員との連携や保育所における保護者支援について実践を通して学ぶ。			
授業計画 以下の内容について、保育所でおおよそ11日間の実習を行う。 教員が訪問指導を行い、スーパービジョンを実施する。 <ol style="list-style-type: none"> 保育所、施設の役割と機能 <ol style="list-style-type: none"> 保育所の生活と一日の流れ 保育所の役割と機能 乳幼児の理解 <ol style="list-style-type: none"> 乳幼児の観察とその記録 個々の状態に応じた支援や関わり 保育内容、養護内容・生活環境 <ol style="list-style-type: none"> 計画に基づく活動や支援 乳幼児の心身状態に応じた対応 乳幼児の活動と生活環境 健康管理と安全対策の理解 計画と記録 <ol style="list-style-type: none"> 支援計画の理解と活用 記録に基づく省察・自己評価 専門職としての保育士と役割と倫理 <ol style="list-style-type: none"> 保育士の業務 職員間の役割分担や連携 保育士の役割と職業倫理 			
テキスト 「幼稚園・保育所・認定子ども園実習パーフェクトガイド」 小櫃智子・守巧・佐藤恵・小山朝子 わかば社			
参考書・参考資料等 保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省） 幼稚園教育要領 幼保連携型認定子ども園教育・保育要領			
学生に対する評価 実習先の評価に基づく実習指導部の評価 40% 実習日誌などの評価 60%			

授業科目名： 保育実習指導Ⅱ	学則に定める必修/選択の別 必修科目	単位数： 2単位 (演習)	担当教員名： 古谷敦・柳田葉子 担当形態：複数
教員養成課程の区分	—		
保育士養成課程の区分	保育実習（「保育実習指導Ⅱ」）		
担当教員の実務経験	古谷：保育士（保育士・年）・柳田：保育士（保育士・39年）		
授業の到達目標及びテーマ 保育所における実習。保育実習Ⅰにおいて学んだことを基礎として、実際に主体的に保育所の保育を実践する。保育士の責務について理解を深め、必要な資質・能力・技術を習得する。家庭と地域の生活実態に触れて、子どもや家庭の福祉ニーズに対する理解力、判断力や支援能力、カウンセリング力を養う。子どもが抱えている子ども自身や家庭の課題を理解し、対応方法を学ぶ。子どもの最善の利益と保育士の職業倫理について学ぶ。指導保育士の助言の下、自ら指導計画を立案、実践する。			
授業の概要 保育所保育実習に向け、実習の目的を明らかにし、目標、課題を持って取り組めるように準備する。保育所の役割、保育士の仕事等を知り、多様な保育ニーズに対応できる保育者としての心構えが持てるように学習を進める。又、子どもと共に生活し遊ぶ中で、子どもの心を理解し、関わり方、援助の仕方を知ることが出来るように、保育観察のポイント・記録のとり方を学ぶ。実習を振り返り今後の自己課題を認識していく。			
【保育所実習の内容】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所実習Ⅰの振り返り・Ⅱの目標設定 2. 保育実習オリエンテーション 3. 保育所の生活と遊び(DVD鑑賞) 4. はじまりにあたって、身上書下書き、オリエンテーションへの電話 5. 紙皿シアター① ※ 6. 紙皿シアター② 発表 7. 運動遊び研究 ① 8. 運動遊び研究 ②発表 9. 責任実習・部分実習について学ぶ OR：はじまりにあたって、身上書、上履き、上履き袋 10. 指導案の書き方① 部分実習の指導案について学ぶ 11. 指導案の書き方② 責任実習の指導案について学ぶ 12. 指導案の書き方③ 指導案返却及び解説 13. ねらいに沿った「実習を終えて」の書き方 14. 日誌の書き方(全復習) 15. 実習終了後の流れについて 			
テキスト 「幼稚園・保育所・認定子ども園実習パーフェクトガイド」 小櫃智子・守巧・佐藤恵・小山朝子 わかば社 「保育の基本用語」長島和代編 わかば社 保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省） 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領			
参考書・参考資料等			
学生に対する評価 課題提出60% 受講態度40%			

